



## 静岡県の温泉を活用した地域振興

齊藤 雅樹<sup>1)</sup>

(令和6年11月25日受付, 令和6年12月9日受理)

### Regional Development Using Hot Springs in Shizuoka Prefecture

Masaki SAITO<sup>1)</sup>

#### Abstract

In Shizuoka Prefecture, a lot of famous hot spring resorts, including Atami Onsen, are located mainly in the Izu Peninsula, as well as a number of small hot spring resorts scattered throughout the prefecture. Shizuoka Prefecture boasts the highest number of hot spring accommodation facilities in Japan, and is also one of the tops in the country in terms of the number of hot spring sources and the amount of hot spring discharge. However, many hot spring resorts are located in “Disappearing Localities”, municipalities that are considered to be at risk of disappearing due to population decline, and are in a serious situation where their very existence is at risk. Among these, Shizuoka Prefecture is actively working to promote local areas through hot springs, and continues to carry out steady activities such as “the Izu Healthcare Hot Spring Innovation Project (ICOI)”, which is an outstandingly large-scale locally-operated commissioned and subsidized project managed by the local government of Shizuoka Prefecture, the Talk Geo Cafe “Onsen Wa Taihen”, a community-based and interactive project run by the Shizuoka Prefecture Hot Spring Association, and “the Shizuoka Prefecture Wakuwaku Hot Spring Stamp Rally”, which tours hot spring resorts throughout the prefecture. In addition, the prefecture is home to unique hot spring resorts such as Hatake Onsen in Kannami Town, which are popular with hot spring enthusiasts. Although there are some serious issues, the active utilization of hot springs, good accessibility, and efforts to become a research and implementation center for hot springs indicate Shizuoka Prefecture’s great potential and future prospects as a hot spring tourist destination.

Key words : Shizuoka Prefecture, hot spring area, regional development, Disappearing Localities

---

<sup>1)</sup> 東海大学人文学部人文学科 〒424-8610 静岡市清水区折戸 3-20-1. <sup>1)</sup> Department of Humanities, Faculty of Humanities, Tokai University, 3-20-1, Orido, Shimizu-ku, Shizuoka 424-8610, Japan. E-mail msaito@tokai.ac.jp, TEL 054-334-0411.

## 要 旨

静岡県は熱海温泉をはじめ、伊豆半島を中心に有名温泉地が立地するほか、県内各地に小規模な温泉地が点在する。全国 1 位を誇る温泉宿泊施設数のほか、源泉数や湧出量も全国屈指である。一方、人口減少により「消滅可能性自治体」とされる自治体に立地する温泉地も多く、存立に関わる深刻な状態にある。その中で静岡県は温泉による地域振興に意欲的に取り組んでおり、県新産業集積課が運営し地方運営の委託・補助事業としては出色の規模を誇る「伊豆ヘルスケア温泉イノベーションプロジェクト (ICOI)」があるほか、静岡県温泉協会は地域密着・交流型の「トークジオカフェ おんせんはたいへん」や県内各温泉地を巡る「静岡県限定わくわく温泉スタンプラリー」を企画するなど地道な活動を継続している。このほか、県内には函南町の畑毛温泉など個性的な温泉地があり愛好者に利用されている。一部で深刻な課題もあるものの、活発な温泉利活用状況、良好なアクセス、温泉の研究・実装拠点を旨とする取組みなどは静岡県の温泉観光地としての高いポテンシャルと将来性を示している。

キーワード：静岡県，温泉地，地域振興，消滅可能性自治体

## 1. はじめに

2024 年の第 77 回日本温泉科学会は静岡県伊豆市の修善寺温泉での開催である。これを縁として、本講演では静岡県の豊富な温泉資源とその利活用について紹介し、温泉資源を活用した各種の地域振興の取組みを考察するとともに、同県の温泉地の課題と可能性について論ずる。

## 2. 静岡県の温泉の資源と利活用

静岡県は全国有数の温泉県であり、源泉数 2,209 (全国 4 位)、湧出量 110,495 ℓ/分 (同 7 位)、温泉地数 118 (同 6 位) を誇る (環境省, 2023)。中でも宿泊施設数 2,108 は全国 1 位であり日本全体の 16% にも相当する。収容定員と延宿泊利用人数はともに全国 2 位であるほか、温泉利用の公衆浴場数 544 も全国 2 位である。各項目の上位 10 都道府県を表 1~7 に示す。

静岡県は旅行目的地としての立地にも恵まれている。気軽に行ける旅としてガイドブック等で紹介されるのは主に片道 2~3 時間のプランのことが多いが、これに相当する距離を 250 km とする

表 1 源泉数ランキング

1	大分県	5,090
2	鹿児島県	2,738
3	北海道	2,229
<b>4</b>	<b>静岡県</b>	<b>2,209</b>
5	熊本県	1,334
6	青森県	1,087
7	長野県	959
8	福島県	801
9	宮城県	742
10	栃木県	631

表 2 湧出量ランキング(ℓ/分)

1	大分県	295,708
2	北海道	196,262
3	鹿児島県	175,145
4	青森県	138,559
5	熊本県	129,962
6	岩手県	112,081
<b>7</b>	<b>静岡県</b>	<b>110,495</b>
8	長野県	104,716
9	秋田県	88,416
10	福島県	77,379

表 3 温泉地数ランキング

1	北海道	230
2	長野県	194
3	新潟県	142
4	福島県	127
5	青森県	125
<b>6</b>	<b>静岡県</b>	<b>118</b>
7	秋田県	117
8	群馬県	96
9	鹿児島県	87
10	岩手県	83
10	千葉県	83

表 4 宿泊施設数ランキング

1	静岡県	2,108
2	長野県	1,002
3	大分県	875
4	北海道	733
5	神奈川県	573
6	新潟県	506
7	群馬県	497
8	福島県	495
9	栃木県	402
10	熊本県	392

表 5 収容定員ランキング

1	北海道	122,501
2	静岡県	112,741
3	長野県	90,400
4	神奈川県	61,050
5	新潟県	57,909
6	千葉県	53,777
7	福島県	52,145
8	栃木県	50,871
9	大分県	49,081
10	三重県	46,525

表 6 年度延宿泊利用人数ランキング

1	北海道	12,313,308
2	静岡県	9,137,500
3	群馬県	6,125,536
4	長野県	5,899,877
5	兵庫県	4,808,363
6	神奈川県	4,765,417
7	大分県	4,366,888
8	栃木県	3,484,168
9	千葉県	3,349,496
10	新潟県	3,193,364

表 7 温泉利用の公衆浴場数  
ランキング

1	長野県	767
2	静岡県	544
3	北海道	539
4	鹿児島県	513
5	大分県	403
6	熊本県	340
7	群馬県	265
8	栃木県	256
8	青森県	256
10	兵庫県	235

表 8 250 km 圏人口の都道府県ランキング

順位	都道府県	人口 (千人)	250km 圏 人口(千人)
1	静岡	3,582	69,275
2	群馬	1,913	66,499
3	長野	2,020	66,211
4	山梨	802	64,010
5	栃木	1,909	58,220
6	茨城	2,840	57,203
7	埼玉	7,337	54,899
8	東京	14,038	52,746
9	富山	1,017	51,784
10	千葉	6,266	51,729

とその圏内にある人口の比較で静岡県は全国1位である(表8)。なお、これはあくまで都道府県庁を起点として2点の直線距離をもとに試算したランキングである(国土地理院, 2000)。

静岡県の温泉はそのおよそ9割は伊豆半島にある。熱海温泉をはじめ、伊豆半島、焼津、館山寺など、海に面したいわゆる「海洋型」の温泉地が多いのが特徴である(静岡県, 2024)。

中でも熱海は江戸時代より日本を代表する温泉地とされ、1604年には徳川家康が息子たちと七日間逗留し、京都で療養中の吉川広家の見舞いに熱海の湯を運ばせた記録がある。江戸に近い立地から大名たちが湯治に訪れ、1629年から1845年までに全国の城主65名が熱海に来湯した記録が残る。また、4代将軍徳川家綱の頃より熱海の大湯を檜の湯樽に汲み、江戸城まで運ぶ「御汲み湯」(図1)が始まり、代々の将軍に継承された(熱海市, 2024)。

1817年に作成された温泉番付「諸国温泉功能鑑」(図2)では最高位の大関は東が「上州草津」,



図1 熱海の温泉水を江戸城に運ぶ「御汲み湯」の想像図 (古屋旅館蔵)

西が「播州有馬」だが、さらに格上の「行司」に「豆州熱海」, 「紀伊熊野本宮」, 「津軽大鰐」の三湯が位置づけられている。このほか、静岡県の温泉地で番付に登場するのはいずれも前頭の豆州小名の湯 (現在の伊豆長岡温泉), 豆州権現の湯 (同 伊豆山温泉) であり、存在感を示している (諸国温泉功能鑑, 1817)。

このように静岡県は恵まれた自然環境や社会環境、歴史の積み重ねを持つ一方で、県内の温泉が立地する自治体の多くが「消滅可能性自治体」に相当する。有識者らで構成される「人口戦略会議」が発表した「令和6年・地方自治体『持続可能性』分析レポート」では「若年女性人口(20-39歳)が2020~2050年で50%以上減少する自治体」を消滅可能性自治体と定義している (人口戦略会議, 2024)。すなわち、若年女性人口が減少しつづける限り出生数が低下して総人口は減少し続け、最終的には自治体が消滅する可能性が高いと推測したものである。

静岡県内では熱海市, 下田市, 伊豆市, 御前崎市, 牧之原市, 東伊豆町, 松崎町, 西伊豆町, 川根本町等が消滅可能性自治体に該当しており (表9), 温泉地の多くが人口減という存立に関わる深刻な問題を抱えていることがわかる。温泉地, また静岡県に限ったことではないが地方における人口減少は喫緊の課題である。

### 3. 静岡県の温泉による地域振興の取組み

#### 伊豆ヘルスケア温泉イノベーションプロジェクト (ICOI)

静岡県における出色の振興策と言えるのが2021年度に開始された「伊豆ヘルスケア温泉イノベーションプロジェクト (ICOI)」である (静岡県, 2024)。伊豆半島の温泉を核とし、自然・歴史・文化・食などの地域資源やスポーツ科学などの知見を組み合わせるヘルスケアサービス創出を目指す事業であり (図3), 事業の規模 (開始年度は最高1,000万円・補助率100%, 現在は最高300万円・補助率50%) は一地域を対象とする温泉分野の委託・補助事業として画期的と言え、当地域の活性化と産業の振興に寄与することが期待される。他県でも同等規模の温泉分野の振興策が望まれる。



図2 諸国温泉功能鑑 (東京大学総合図書館蔵)

表 9 静岡県内の「消滅可能性自治体」

市町村名 (静岡県内)	主な温泉地	2020年 総人口	2020年 20-39歳 女性	2050年 総人口	2050年 20-39歳 女性	若年女性 人口 変化率	中分類
熱海市	熱海温泉	34,208	2,210	20,578	928	-58.0%	自然減:大, 社会減:大
下田市	下田温泉	20,183	1,240	10,574	548	-55.8%	自然減:中, 社会減:大
伊豆市	修善寺・土肥	28,190	1,791	14,014	688	-61.6%	自然減:中, 社会減:大
御前崎市		31,103	2,618	19,720	1,246	-52.4%	自然減:中, 社会減:大
牧之原市		43,502	3,879	27,948	1,875	-51.7%	自然減:中, 社会減:大
東伊豆町	熱川・稲取	11,488	650	5,575	228	-64.9%	自然減:中, 社会減:大
松崎町	松崎・雲見	6,038	267	2,840	95	-64.4%	自然減:中, 社会減:大
西伊豆町	堂ヶ島温泉	7,090	305	2,869	91	-70.2%	自然減:中, 社会減:大
川根本町	寸又峽温泉	6,206	325	2,392	89	-72.6%	自然減:中, 社会減:大

(「令和6年・地方自治体『持続可能性』分析レポート」をもとに筆者作成)

**伊豆ヘルスケア温泉イノベーションプロジェクト (ICOIプロジェクト)**

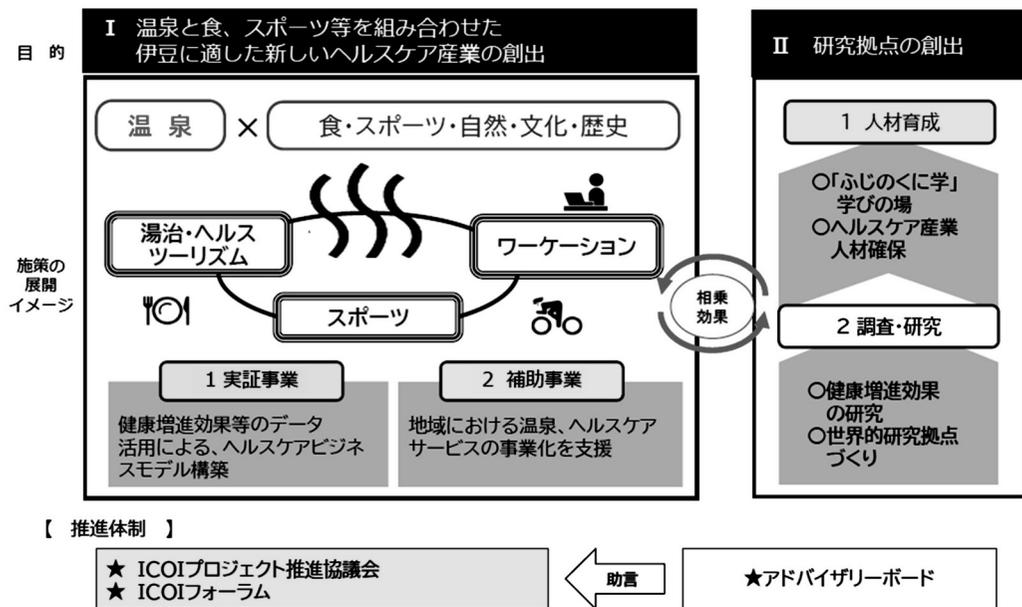


図 3 「伊豆ヘルスケア温泉イノベーションプロジェクト (ICOI)」の概念図 (静岡県新産業集積課資料より)

ICOIプロジェクトの骨格を成す「産業の創出」においては、「湯治・ヘルスツーリズム」、「スポーツ」、「ワーケーション」、「その他」の各分野において事業が公募される。直近の2024年度は「特別枠（上限300万円）」6件、「通常枠（上限100万円）」10件の応募があり、特別枠6件、通常枠7件が採択され、過去最高の件数となっている。

このほか「研究拠点の創出」が目的に設定され、静岡県の食と温泉文化を同時に発信する「ふじのくに食と温泉文化フォーラム」の開催、温泉を中心に伊豆の地域資源を学ぶ大学生向け講座「ふじのくに学」等の人材養成（図4, 5）、調査・研究として健康増進効果の研究や世界的研究拠点づくりなどの取組みが行われている。

これまでのICOIプロジェクトの主な成果を図6, 7に示す。2022年度までは温泉を中心としたプログラムの健康増進効果に関するエビデンスや知見を得ることが事業の目的であったが、2023年度からは社会実装に舵を切り、得られたエビデンスや知見に基づくビジネスモデル構築・横展開を目指している。せっかくの成果が社会で活用されることなく眠る研究プロ



図 4 「ふじのくに学」講座での温泉学習（講義）



図 5 「ふじのくに学」講座での温泉学習（グループワーク）

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ R4年度は、温泉に食やスポーツ等を組み合わせたプログラムの健康増進効果を取得</li> <li>○ R5年度は、得られたエビデンスに基づくビジネスモデル構築・横展開へ</li> </ul>			
分野・事業者	概要	R4に取得された健康増進効果	R5のビジネスモデル構築
【湯治・ヘルスツーリズム】 （株）竹屋旅館	・温泉の効能を高める食を中心としたコンテンツの開発	・睡眠の質、ストレス指数等が有意に改善	・マニュアル化等導入支援をパッケージ化 
【スポーツ】 （株）JTB総合研究所	・温冷交代浴によるスポーツ選手のリカバリーサービスの構築	・リカバリー効果とパフォーマンスの向上	・効果的な温冷交代浴の手順や事例マニュアル作成 
【ワーケーション】 （株）ジェイアール東日本企画	・企業向け「健康増進ワーケーションプラン」を開発	・健康関連自己評価、血圧等が有意に改善	・伊豆の施設で活用可能なマニュアル作成 

図 6 2022 年度の ICOI 事業の主な成果（静岡県新産業集積課資料より）

○ ターゲットをより明確化した新たなビジネスモデルの構築を目指し、健康増進効果取得に加え、ヘルスケアサービス確立を重点的に実施			
事業者	概要	ターゲット	期待される効果
東海大学 【共同実施者】 西伊豆町	・温泉プールでのトレーニングメニューを組み込んだスポーツ合宿プランを創出 ・合宿誘致のビジネスモデル構築	・プロ及び学生アスリート ・スポーツ活動を行っている各種団体	・コンディションの向上、炎症反応低減 ・交流人口の拡大
(一社)伊豆長岡エリアマネジメント	・温泉と伊豆の自然資源、ヘルスケア体験を組み合わせたウェルネスサービスの提供	・伊豆の国市民(若年層) ・首都圏の若年層	・健康的な生活習慣の拡大 ・ウォーカブルなまちづくり
(株)Y4.com	・宿泊型の特定保健指導サービスにより持続的な行動変容を促す ・睡眠/ストレスの可視化、温泉効果の体感	・糖尿病患者とその予備軍、重症化予防対象者	・2kg or 2cmの体重・腹囲の改善 ・温泉でのストレス/睡眠の改善 等

図 7 2023 年度の ICOI 事業の主な成果 (静岡県新産業集積課資料より)

プロジェクトのある中で、ICOI 事業はヘルスケア産業の創出に向けての具体的なステップを制度内に設定しており、通常の研究助成プログラムと一線を画す点であると言える。

### 静岡県温泉協会の取組み

静岡県の温泉振興に 1961 年から地道に取り組んでいる機関が静岡県温泉協会である。伊豆エリアを中心に 6 支部と 19 の市町賛助会員、21 の賛助企業から成る (静岡県温泉協会, 2024)。講習会開催などの一般的業務のほか、静岡ならではの取組みとして「静岡県限定わくわくスタンプラリー」の企画・運営や (図 8)、美しい伊豆創造センターと共催する温泉地での専門家・関係者・市民の交流行事のトークイベント「ジオカフェ おんせんはたいへん」の開催などユニークな活動が注目されている (図 9)。

同スタンプラリーは別府や九州全土で実施されている「温泉道」と呼ばれる広域かつ大規模な温泉スタンプラリーの静岡県版を目指して企画されたものであり、第一弾は 2021 年 11 月から 2023 年 3 月に実施され、県内 60 施設が参加 (東部 56, 中部 18, 西部 11 施設)、イベント総参加者数は約 6,000 人、1 施設当たり入湯人数は約 70 人 (延人数) と報告されている (静岡県温泉協会, 2024)。現在、温泉スタンプラリーの第 3 弾が実施されており (2023 年 11 月~2025 年 3 月)、温泉愛好者に人気となっている。

### 静岡県の小規模温泉地

静岡県内には小規模の温泉地が点在しているが、それぞれ独自の取組みが行われ、特有の愛好者を持つ温泉地がある。例えば、函南町にある畑毛温泉は宿泊施設 3 軒のみの小ぶりの温泉地であるが (図 10)、源泉温度の低いいわゆる「ぬる湯」を愛好する利用者が集う特徴がある。環境省の全国「新・湯治」効果測定調査において、2019 年に筆者らが畑毛温泉で実施したアンケート調査 (n=48) では、他の温泉地に比して多くの項目で高めのスコアとなる傾向が見られた。施設経営者によ



れば温泉利用者のほとんどはリピーターであり、多くが畑毛温泉の愛好者であるために好意的データが出るのも首肯できるとのことであった。このような特徴ある小規模温泉地は静岡県内では他にも散見される。

#### 4. 静岡県の温泉地としての可能性

静岡県の温泉地の特徴を総括すると、①活発な温泉利活用状況（源泉数4位、宿泊施設数1位、公衆浴場数2位）、②250km圏内人口日本一（アクセスの良さ）、③温泉地自治体に消滅可能性自治体が多い（持続可能性に難あり）、④温泉の研究・実装拠点を目指す取組み（ものづくり県、恵まれた研究環境、ICOI事業）、⑤散在する小規模な温泉地（熱海・伊豆だけではない特徴的な温泉地）などが挙げられる。これらは一部で深刻な課題も含むものの、静岡県の温泉観光地としての高いポテンシャルと将来性を示している。関係者による各種の温泉地振興策が徐々に結実しつつあり、今後の成果に期待したい。



図 10 畑毛温泉の旅館「誠山」の温泉（筆者撮影）

#### 引用文献

- 熱海市ホームページ（2024年11月閲覧）：「徳川家康の運命を変えた伊豆権現と熱海の湯」<https://www.city.atami.lg.jp/shisei/atamishi/1001244/1001248.html>
- 熱海市ホームページ（2024年11月閲覧）：「御用汲湯の想像図」, 古屋旅館蔵 <https://www.city.atami.lg.jp/shisei/atamishi/1001244/1001248.html>
- 人口戦略会議（2024）：「令和6年・地方自治体『持続可能性』分析レポート」. <https://www.hit-north.or.jp/information/2024/04/24/2171/>（2024年11月閲覧）
- 環境省（2023）：令和4年度温泉利用状況. [https://www.env.go.jp/nature/onsen/pdf/4-5\\_p\\_1.pdf](https://www.env.go.jp/nature/onsen/pdf/4-5_p_1.pdf)（2024年11月閲覧）.
- 国土地理院（2000）：「都道府県庁間の距離」国土地理院技術資料 C1-No. 282 日本の市区町村位置情報要覧（平成12年度版），pp. 306-311.
- 静岡県ホームページ（2024年11月閲覧）：「伊豆ヘルスケア温泉イノベーションプロジェクト」<https://www.pref.shizuoka.jp/>
- 静岡県温泉協会ホームページ（2024年11月閲覧）<https://www.shizuoka-onsen.com/>
- 諸国温泉功能鑑（1817）：東京大学総合図書館所蔵 石本コレクション